

もち²×スマ もちもちの木smile

TOPICS

- ✓ 庚午カフェ「お一人様おせち料理」
- ✓ 手紙家くま 書パフォーマンス開催
- ✓ もちもちスタッフ それぞれの働き方
土橋のおうち
在宅を支えるデイサービス看護師 土江 真紀さん

巻頭言 「人の縁という財産」を new normal でつなぎ、new style で創っていこう！

今年の丑年は「辛丑（かのとうし）」です。十干と十二支は、それぞれ植物の一生を表しており、「辛」は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」。「丑」は「種から芽が出ようとする状態」だそうです。終わりを感じると同時に新しい出発の兆しを感じます。辛丑は晩秋の季節を表し、植物の一生では枯れて次の種が生まれる、終わると同時に始まる、いわば転換期を暗示しているのではないでしょうか。

いま、もちもちの木では新型コロナウィルス感染予防のために、新しい生活様式でのコミュニティのあり方を模索しています。

2019 年度、もちもちの木では中区・西区の 3 か所でコミュニティづくりを展開し、延べ 1 万人の地域住民が活動してきました。しかしコロナ禍の今、これまでの

つながり方の「価値前提」の転換が喫緊の課題となっています。

2021 年は、これまで創ってきた縁を new normal(新たな日常)でつなぎ、これからの縁は new style (新たな様式) で創っていきます！ 具体的には看護介護の自費サービス、高齢者のオンライン体験、介護のオンライン相談やカウンセリングそしてオンライン講座など実施する予定です。

もちもちの木は状況が変わってもその時その時代に寄り添って、介護で自己実現を目指し、「人の縁という財産」を創り続けます。

これからも変わらず、みなさまのご支援とご協力をお願い申し上げます。



理長 竹中庸子

庚午カフェ「お一人様おせち料理」



庚午カフェのボランティアは新型コロナウィルス感染防止と両立する地域活動の在り方を試行錯誤してきました。そんな中、一人で過ごされる高齢者が多いため「お一人様お節料理」

を企画。80個の注文をいただきました。お節の蓋には手紙家くまさんに「寿」の文字と「おかげさまで今があるよ ありがとう 今年も一年よろしくね」と言葉を添えてもらいました。

ました。和太鼓の演奏に合わせて力強く筆を走らせていく臨場感あふれるセッションに利用者のみなさまも釘付けになりました。

以下、くまさんご本人のコメントです。



パフォーマンスの様子

「演舞終了後、85歳をこえる男性のご利用者様は涙を流しながら『最高じゃ』と話して下さり、自ら太鼓のぼちを握り太鼓を叩く姿がありました。その背中や涙、皆様の「ありがとうね」の言葉に私たちが感動し、大きな力を頂きました。今こうして施設を利用されている方々が、必死で仕事をしたり家や家族を支えるために動いて下さったおかげさまで私たちが今、こうして仕事が出来て好きなことが出来ている。そんな感謝を感じた時間になりました」とのこと。

コロナ禍で沈んだ話題の多い中、気勢の上がる素晴らしいイベントとなりました。



もちもちの木 働き方改革



もちもちの木の職員はそれぞれの個性的な生き方を大切に、多様な働き方をしています。
今回は、在宅を支えるデイサービス看護師・土江真紀さんをご紹介いたします。

土橋のおうちで勤続7年の常勤職員として働く看護師の土江真紀さん。ガンで亡くなった祖母がいた経験から、ホスピス（緩和ケア）勤務を目標に看護師になったそうです。



看護師 土江真紀さん

総合病院で10年間の経験を積み、妊娠出産を期に退職。5年間の育児休暇を経て復職を考えた際、病棟勤務していた時の疑問が頭をよぎったといいます。

「治療のための入院後、無事に退院する際、自宅で安心して療養生活を送れるよう丁寧に退院指導を行って病院を送り出しているにもかかわらず、なぜ、また病院に戻ってくる患者さんが多いのか」

「治療のための一時的な場所」である病院と違い、より生活に近い「介護福祉」に携われば何か分かるかもしれない、パートとしてもちもちの木へ就職。

病棟では分からなかった日常の様子を知ることができ理由がはっきりしたそうです。「病院の管理された環境とは違い、退院後は、行動、食事など入院前の生活に戻ってしまう。確かに入退院を繰り返すような状況にはなるだろうな、と感じた」と土江さん。介護を受ける側もする側も普段の生活スタイルは『要（かなめ）』だと話します。

昨年には、法人からの勧めもあり認知症介護実践者研修を修了。これまで感覚的に理解していた『自立支援』を、体系的に学ぶことで本当の意味で理解できました。

「看護師は、治療のために患者さんの行動を先読みし先回りしてサポートします。介護は全くの逆で、利用者さんに合わせて動きを見守り、時に寄り添い『待つ』ことが必要。デイサービスを含めた日常生活の中で寝たきりにさせない方法を、ご本人の状況によって臨機応変に対応しながら機能訓練を行います。先回りのサポートは自立支援では不要です」とのこと。

ホスピスでの勤務を目指していた土江さん。現在はどのように先を見据えているのか尋ねてみると、「正直に言うと何度か方向性に悩む時期がありました」と、これまでに葛藤があったことを話してくれました。「近年は、看護業界も訪問看護に力を入れています。社会全体が『病院での看護医療』から『地域の中での看護医療』に向かっていると思います。医療の方に負担がかからない方向へ、と考えると、今の現場で『看護』という専門性を生かすことが大切なのかな、と考えています。今は、いろんなことが分かってきて、この仕事が本当に面白くなってきました。やっていて良かったなあ、と思うことが多いです」と土江さん。

現在、新型コロナ感染拡大防止により、マスクで顔の表情がわかりにくく、コミュニケーションや今までとは違う生活スタイルに適応するのが難しいとストレスを感じている利用者さんやご家族が多いそうです。コロナへの配慮は行いつつ、デイサービスでの適度な刺激により満足して帰られた利用者さんのご家族から、「帰宅後はとてもぐっすり休んでくれて、私たちもリラックスして過ごすことができた」とご報告があるそう。普段、ご家族から、医療機関を受診するタイミングや薬の管理・投与の方法など、在宅時の介護・看護について相談を受けることが多い土江さん。「ご家族もとても疲れているんです。少しでも楽になれるなら、本当に良かったな、と思います」と笑顔で話してくれました。

土江さんは、看護師としての専門職の仕事のほか、もちもちの木の介護技術指導者としてスタッフ教育も担当しています。一昨年からはアセッサーとしてのキャリアもスタートしました。今後としては、看護の専門的な知識を学ぶことに加え、介護技術の質を向上させ、もっと介護への理解を深めてもらいたいと考えているそうす。



利用者様から嬉しい
お声をいただいている！



「あんたちらはあれしたらいいけん！これしたらいいけん！とひとつも言やーせん。これがええよ。あれしたらいいけん！これしたらいいけん！言われると情けないもんよ。長生きしたらええことあるね。ありがとうね」
(デイサービス土橋のおうち利用者様より)

庚午のおうちシェアハウス
おかげさまで満室となりました！
ありがとうございました。



特定非営利活動法人
もちもちの木

～優しい心～ 迷つたり 探さぬよう そばにいるよ

もちもちの木動画配信の案内ー YouTube

Zoomオンライン相談窓口に関する動画を配信



グループホームの紹介動画も配信しています。

土橋のおうち

古田のおうち



【本 部】 土橋のおうち 中区土橋町5-35
TEL : 082 (294) 9346 FAX : 082 (294) 9328
MAIL : mochimochi.npo@gmail.com WEB : <http://mochi2.wpblog.jp/>
◎ 古田のおうち 西区古江新町8-32 TEL : 082 (272) 2701
◎ 庚午のおうち 西区庚午中一丁目9-11※お問い合わせは土橋のおうち